

人と田と土の音楽

蒸気機関車の吐き出す煙の匂い、乗り換え駅でのアイスクリームの味。長唄、民謡修業のため、茨城県潮来町（現潮来市）から三味線を抱えて東京へ引っ越した13歳の時の懐かしい思い出です。

私は後に本條流を創流し、三味線音楽「俚奏楽」の創作に向かうのですが、そのきっかけは上京したばかりの頃に見た岩手県の民俗芸能・剣舞の力強く優美な舞台でした。「私もこの剣舞をテーマに作曲したことがあるんですよ」と言って、長唄の師匠が連れて行ってくれたのです。



本條秀太郎

楽屋でお会

いした舞手は、節くれだつた太い指の優しい笑顔のおじいさんでした。剣舞の

豊かなりズム感私の体にしみこみました。

鄙唄である民謡を昔は「俚謡」といいました。「俚」は「人」「田」「土」からなりたちます。地方芸能に残る日本人独特の、土俗的な調べを、民族楽器である三味線で追求していくのが俚奏楽です。

1969年、24歳の時、石川県・山中温泉に伝わる山中節の切ない美しい旋律をもとに俚奏楽「雪の山中」を作曲しました。山中温泉では毎年、本條流一門と地元愛好者が街で三味線を弾き、舞っています。この「道中流し」、今年は9月1日に行います。

（三味線演奏家・作曲家）

（全4回）